

鏡像建築

- 心理効果に着目した実証設計 -

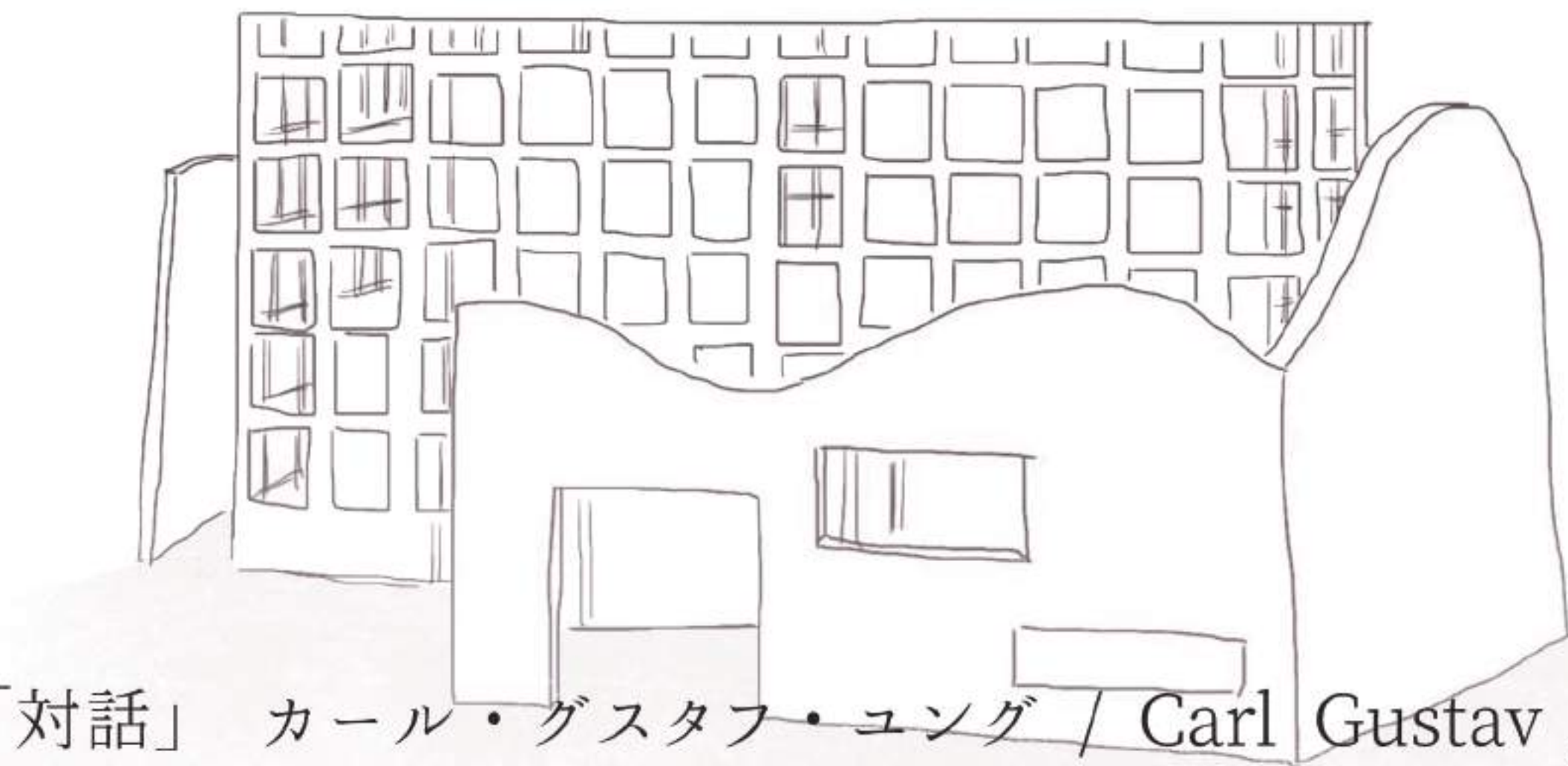
過去の制作物から心と空間の関係、加えて設計行為は自分の無意識の領域を可視化していることに気がついた。

これは設計という行為が自分との対話の繰り返しであり、無意識の意識化と類似性があると推測される。

それらの間に存在するドローイングやマインドマップは自らの中にある抽象的なものを可視化するためであり、心と空間の関係性に影響を与えていると考える。

これらの調査と推測から生まれた疑問に対する仮説を立て、「設計」による実証から建築が人にとって心的アンカーやトリガーとなることの証明と考察を図る。

自分と建築の関係から人と建築の関係性を探り、療法的設計手法の検討を目指す。



「対話」 カール・グスタフ・ユング / Carl Gustav Jung

ユングの「対話」は、ただ単に言葉を交わすものとは違います。

お互いの心がかみ合い、お互いの反応を積み重ねることによって「対話」は成立するとしています。そしてユングは、人対人だけではなく

自分の内面と向き合う、自分自身との「対話」も重要視しています。自分は今、何をどう感じてどう反応しているのか、

自分自身と「対話」することで自身の内面の変化を見逃さないことが大切だとしています。

ユングとは | ユングの心理学と3 大巨頭フロイト・アドラーについて解説 - (docoic.com)

問い

01 選択しなかった解き方で設計したものはどうなるのか。

対話を繰り返す中で何度も分岐点があり情報の取捨選択を行っているが、

そこで選択しなかった解き方で設計を進めた場合、どうなるのか。

02 心理状態が設計に影響を与えているのか、設計 / 建築が心理状態に影響を与えているのか。

心理状態によって取捨選択する情報に変化があるのか、それは設計に影響を与えているのか、

設計行為が心理状態に影響を与えているのか。

仮説

01 「無意識の中にある何かを意識化する行為」＝対話

設計という、無数ある情報の中から惹かれるものをピックアップし、コンセプトを立て形作る行為は自分にとって無意識の中にある何かを意識化する行為であり、自分の外向的な部分と内向的な部分が対話するためのものと言える。それらの2面性が設計という対話によって引き出されていると推測され、設計は心理状態に何らかの影響を与えていると考えられる。

02 建築 / 設計は心的アンカーとして働く

完成した制作物から当時の行動や感情、思考が思い出されることから、自分にとって設計には何らかの心理効果が存在すると考えられる。

[考えられる心理効果]

アンカー：ある記憶（引き起こしたい記憶 / 気持ち / 体感）

トリガー：思い出すきっかけ（特定の物や言葉 / 行動）

設計行為が無意識を意識化する行為であり、アンカーやトリガーであるならば、療法としての可能性があると言える。

研究方法

以下の順で研究を進める。

1 敷地調査

岐阜県関市神野を対象に調査する。



2 情報の選別

集めた情報から設計に用いるものを選別する。



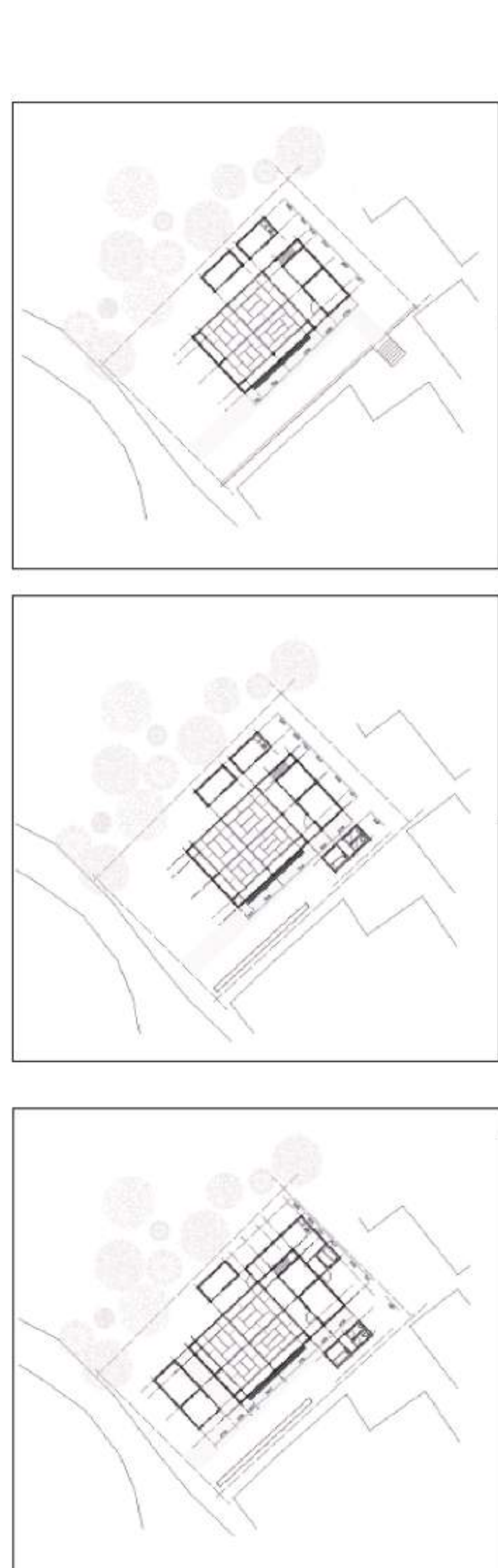
3 空間設計

建物の前、上部のみ増築することを条件とする。

4 分析

心理状態と関係性はあるのか、出来上がったものから分析をする。



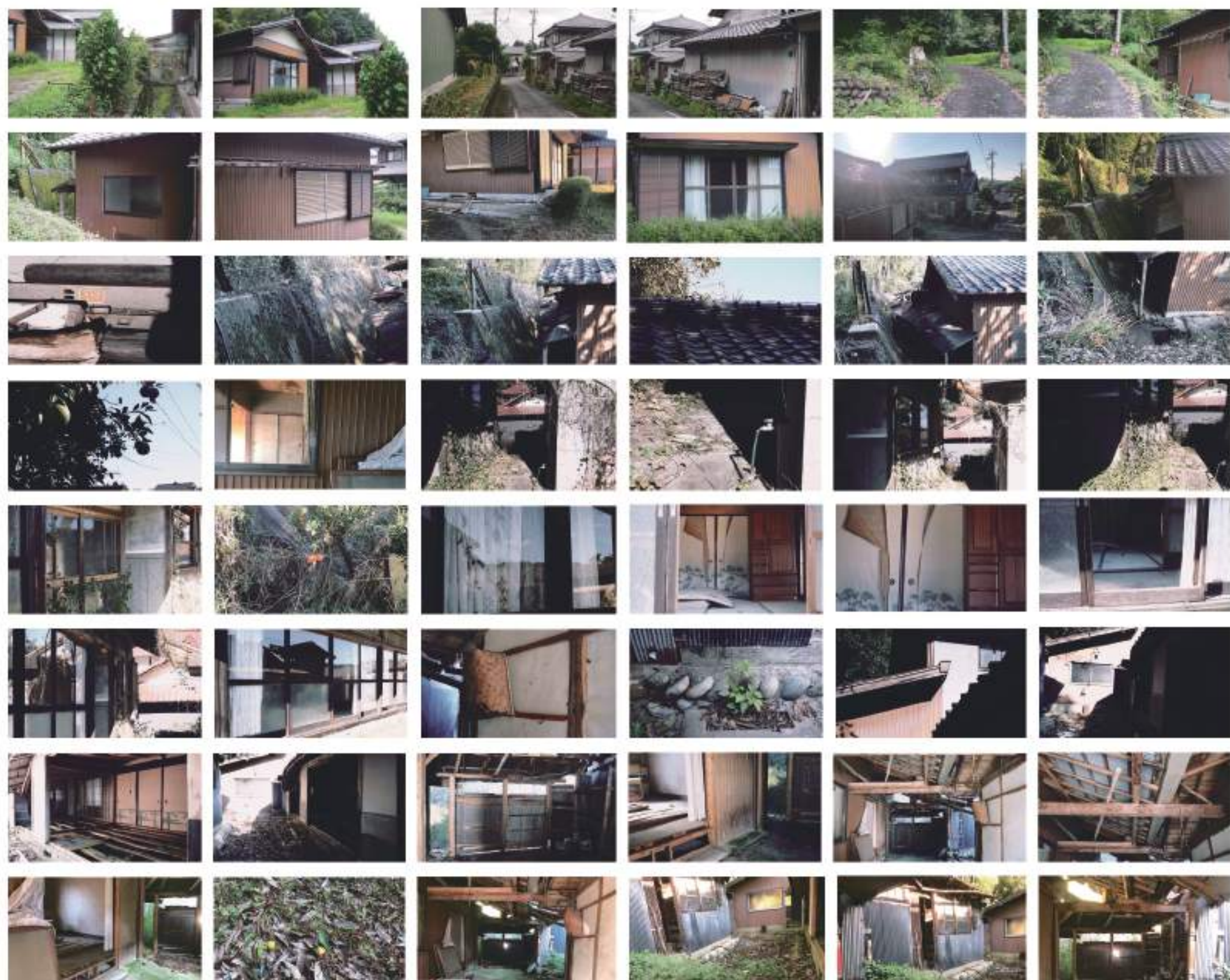


- ？
- ・五右衛門風呂
薪を割って自分たちで湯を沸かしていた
- 先祖代々住み継いできた家
- 1949
- ・石垣付近に共用の井戸があった
- 1959
- 伊勢湾台風により被害を受け、茅葺屋根を撤去
曾祖母の兄（大工）が建て直す
 - ・洗面、浴槽を改装
 - ・隣家の敷地を借りて牛と山羊を育てていた
 - ・畑でキウイや苺、菊の花を育てていた
- 1972
- 1978
- 叔父が結婚し、曾祖父母と同居することになり増築
 - ・台所、洗面、浴槽を改装
 - ・真裏の山にお寺があり、遊びに行っていた
- お坊さんが引っ越し、空き家になった頃から
猿や野犬の住処となり人は行かなくなった
- 2018
- 岐阜県関市北部の上之保地区にて河川の氾濫
- 2021
- 住人はいないが叔父が管理をしている



- | | |
|-----------|---------|
| ・アケビ | ・キイチボ |
| ・柿 | ・栗 |
| ・ビワ | ・クワ |
| ・梅 | ・紫蘇 |
| ・ドクダミ | ・タンポポ |
| ・ミツバ | ・セリ |
| ・ナズナ | ・ツユ草 |
| ・茶 | ・南天 |
| ・菊 | ・桃 |
| ・ぐみ | ・ススキ |
| ・キウイ | ・蓮華 |
| ・彼岸花 | ・キカラスウリ |
| ・オオバコ | ・ハゴベ |
| ・スギナ | ・ネコヤナギ |
| ・アメジストセージ | ・サントリソウ |
| ・オオムギ | ・オオヨモギ |
| ・オニユリ | ・ゴマ |
| ・クスノキ | ・ニチニチソウ |
| ・ゲシ | ・ナデシコ |
| ・キキョウ | ・クちなシ |
| ・ゴボウ | ・ケイトウ |

既存建物について

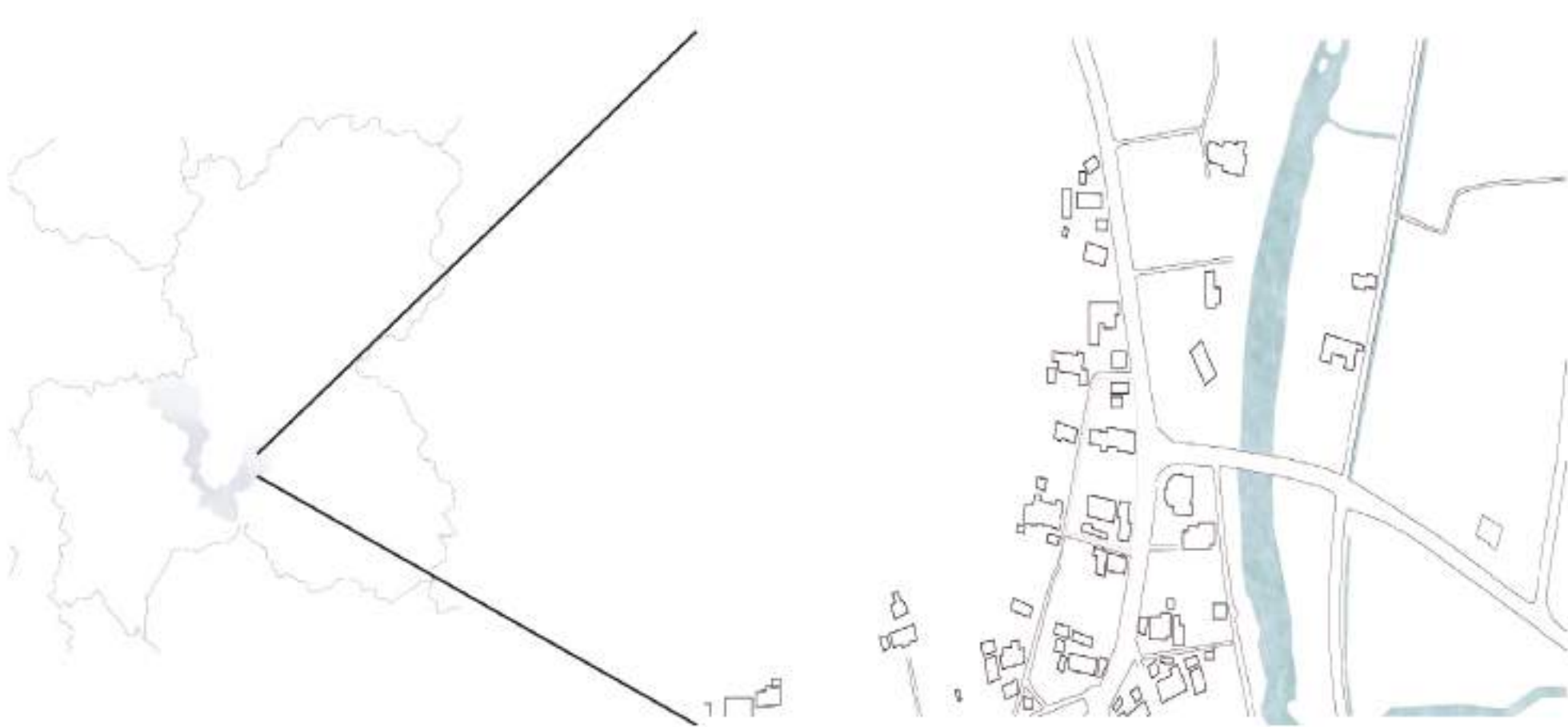


既存図面



対象敷地：岐阜県関市神野

枝豆畑では手入れをしている農家の方がつまみ食いをしている猿を見つめていたり、夕方になると野犬や動物たちが出てくると急ぎ足で家に帰る人がいたり、自然豊かな土地で動物、植物、人間が共存していることを肌で感じられる町。山道付近の住宅は古くから住み継がれ、代々人が暮らしている。台風や水害の被害を受けやすい土地であったため、茅葺屋根から瓦屋根に、地面に敷石やコンクリート舗装などの改築が行われている住宅が多い。



富野地区の言い伝え「坊地の一本杉」

関の富野に坊地という部落があります。

この村の南のはずれから伊深街道へ向かう津保川沿いのみちばたに樹齢千年ぐらいい思われる杉の大木が立っています。昔、昔、旅人の六部が行きだおれになりました。村人は六部をふびんに思い、せめてものなぐさめにと、そこに杉の苗木を植えました。これが大きく成長したのが一本杉です。

ここに住む豪族（金持ちで、勢力の強い一族）が、一本杉性を名のり住んでいました。その領地は四里四方（十六キロ四方）もあり、武儀町下之保の高沢観音まで他人の土地を通らなくても行けるほどでした。ある年のことです。織田信長の美濃攻めが始まりました。負けた斎藤方の武将の一人がこの土地まで逃げてきたのですが一本杉のそばで腹を切って死んでしまいました。それから何日か経ち、今度は幼い子を抱いた乳母が行きだおれになりました。乳母は苦しうに、「この子はあるえらいお方の子どもでございます。敵に見つかれば必ず殺されてしまうでしょう。なにとぞ、おかくまい下さいませ。お願いでございます。」

とひっしに頼んで息を引き取りました。哀れに思った村の人たちは、大杉の近くに落ち武者と乳母を葬ってやり、そこに南天の木を植え、通りすがりの六部に頼んでお経をあげてもらいました。残された子は、一本杉家の主人が、「おうおう、なんとかわいい子じゃ、わしの子として大切に育ててやろう。」と、お屋敷の中に連れていきました。間もなく織田方の追っ手がやってきました。「子どもを抱いた女が村にやってこなかったか？」

「さあ、見ませんな。」
と、村の人たちはとぼけて、誰一人口を割る者はいませんでした。「どうもここではないらしい。」

「他へ行ってみよう」
と迫っ手があきらめて帰りかけたとき、
「オギャー、オギャー、オギャー。」
と、赤ん坊の鳴き声が聞こえてきました。「いるぞ！　どこだ！　さがせ！」

村人たちはギョッとしました。声は、一本杉の根本から聞こえてきます。根本に穴が空いていて、そこから泣き声がするのです。「あそこだ！」

追っ手の一人が手をつつ込みました。何やらガサガサ引きずり出しました。それは子ども用の鎧でした。「やや、おかしいぞ！」
「たしかにこの中から泣き声が聞こえたのに、からっぽの鎧しかないぞ。」
薄気味悪くなった追っ手は、「もうよい、帰るぞ。」
「引き上げよう。」

と、言って帰ってしまいました。村人たちは、「一本杉のおかげで子どもの命が助かった。よかった。よかった。」

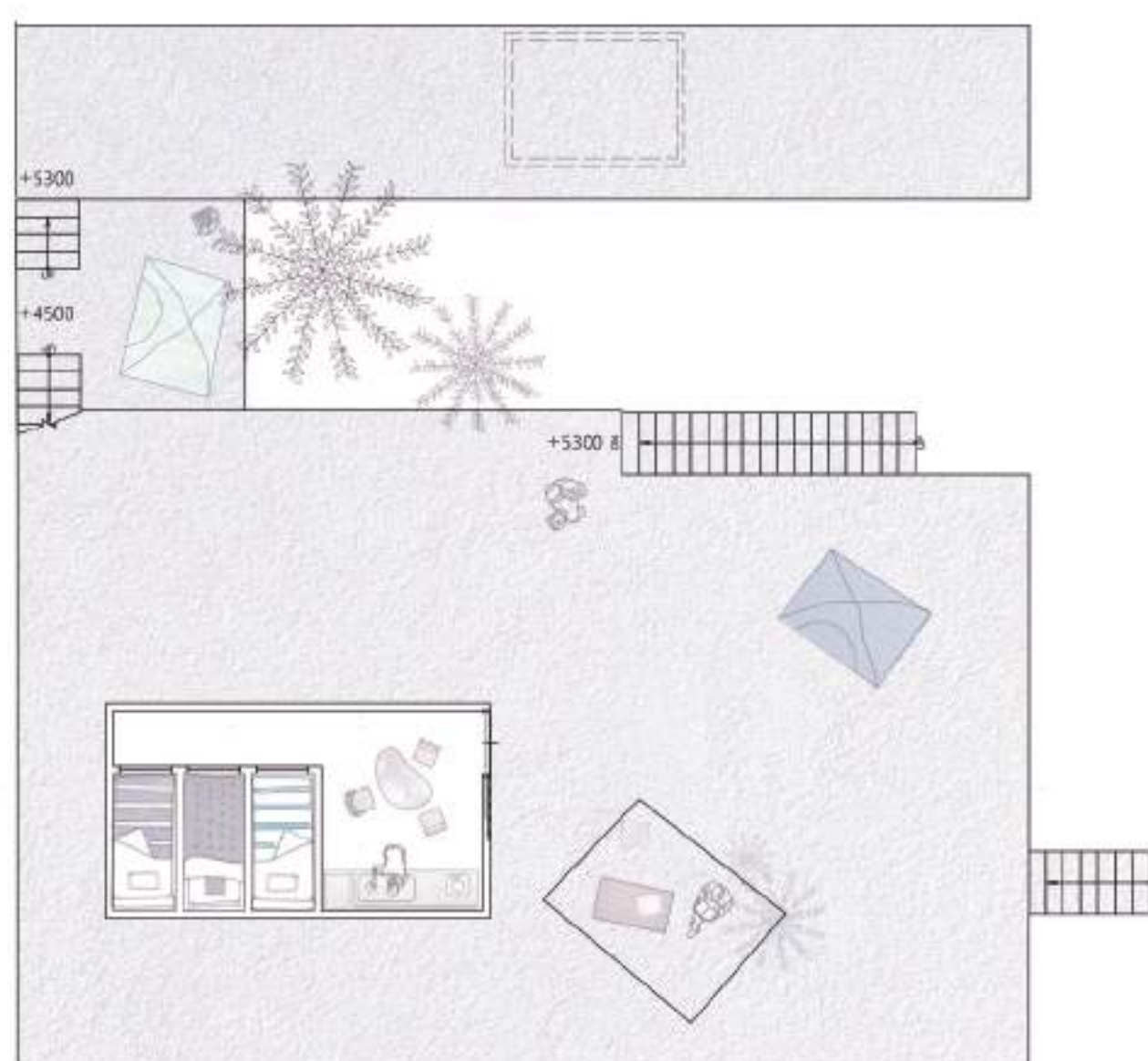
と、ほっとしました。それからのち、赤ちゃんが夜泣きをして困ったりすると、一本杉の皮をむいて、それを煎じて飲ませると不思議なことに夜泣きがピタリと止まるという言い伝えが残っています。一本杉家は、その後、神野本郷に移り住み、奥州平泉の名門、藤原家の血筋を引く加治田城主、佐藤紀伊守の娘を嫁に迎えて、佐藤姓を名のるようになりました。佐藤家の子孫は今でも富野から富加町にかけて栄えています。



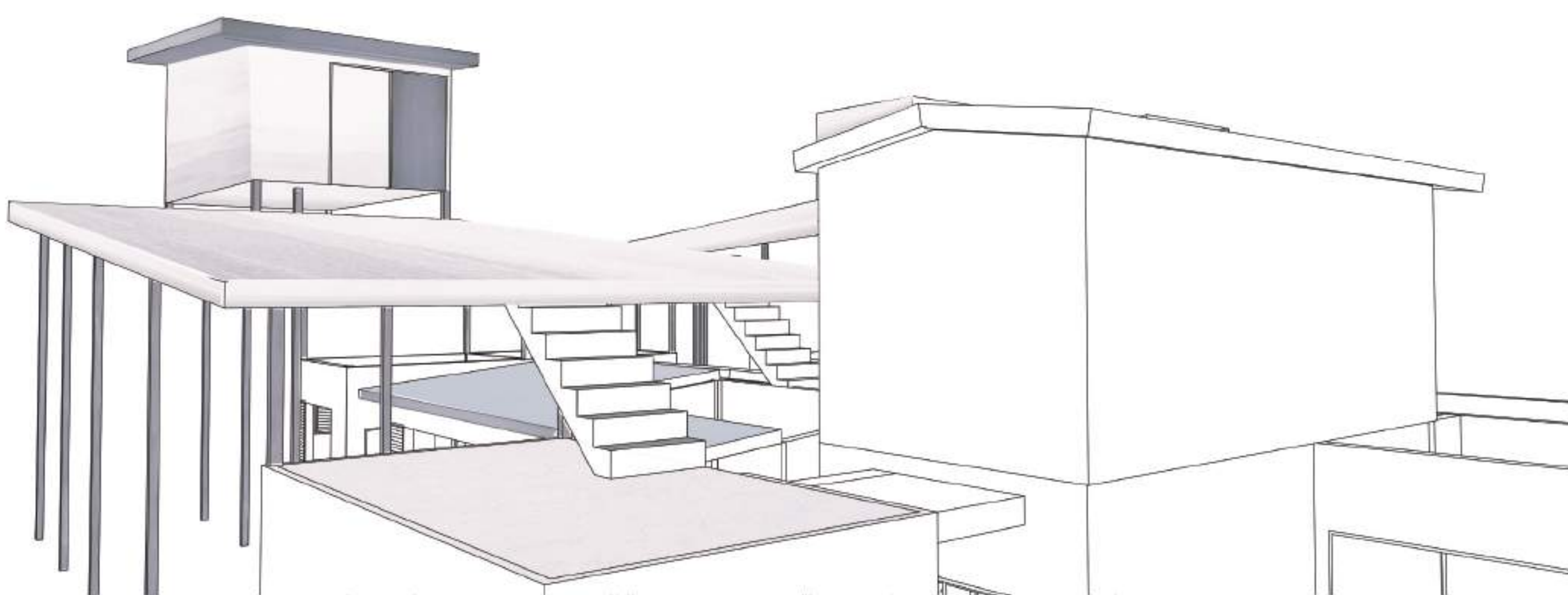
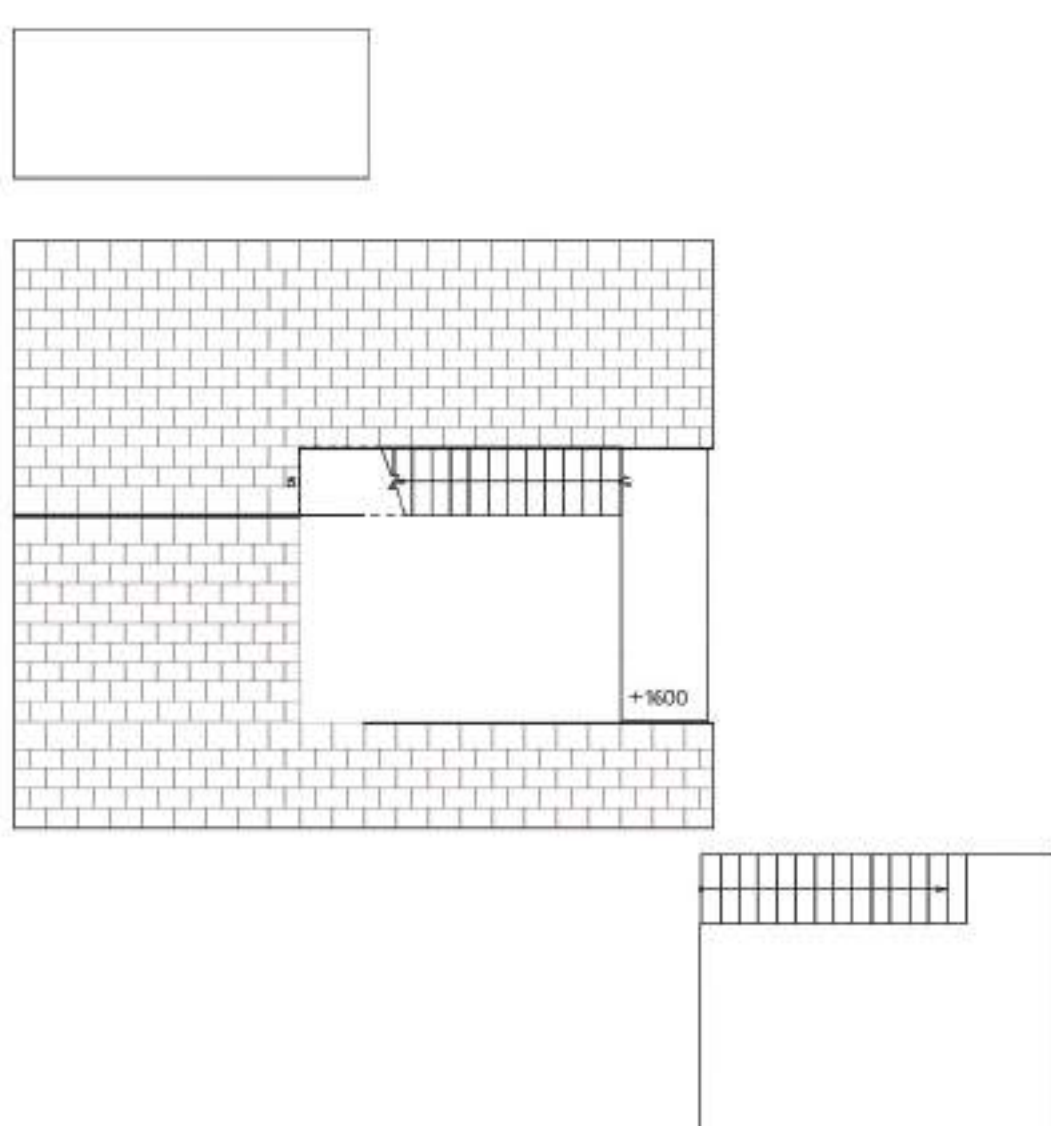


高台の家

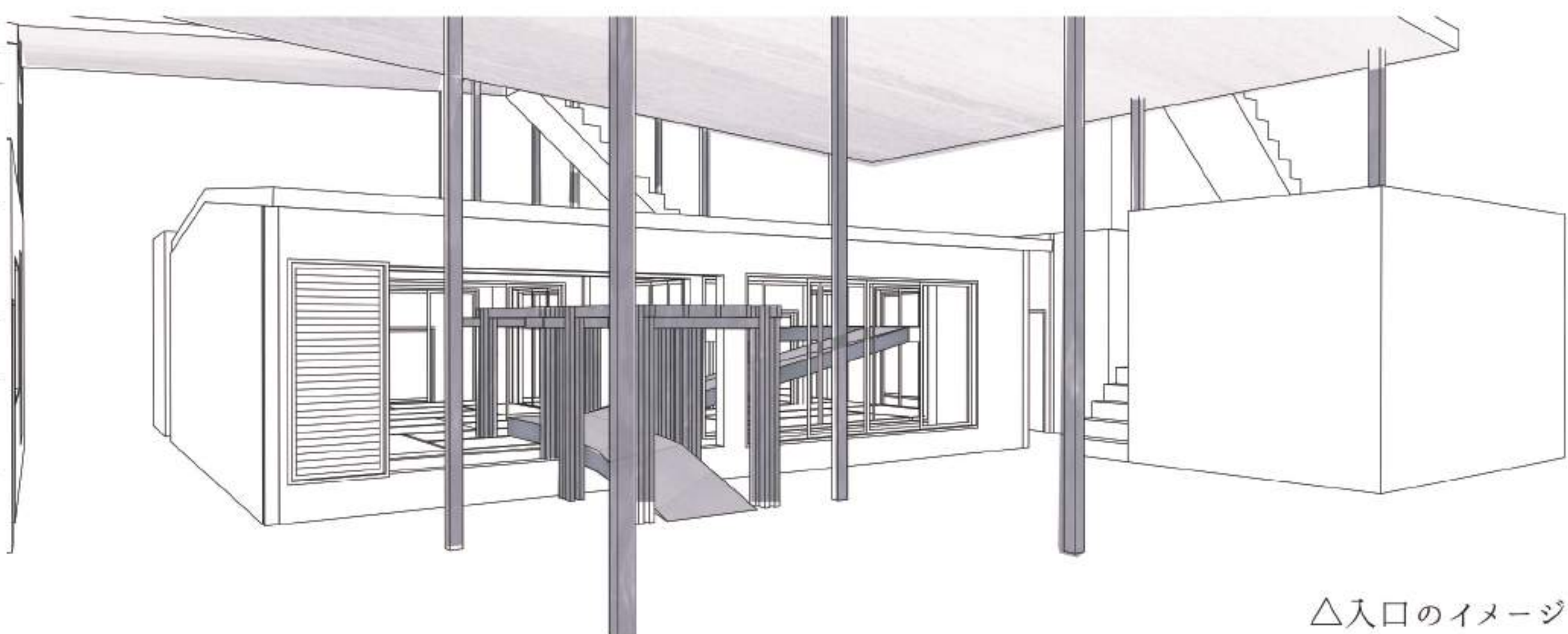
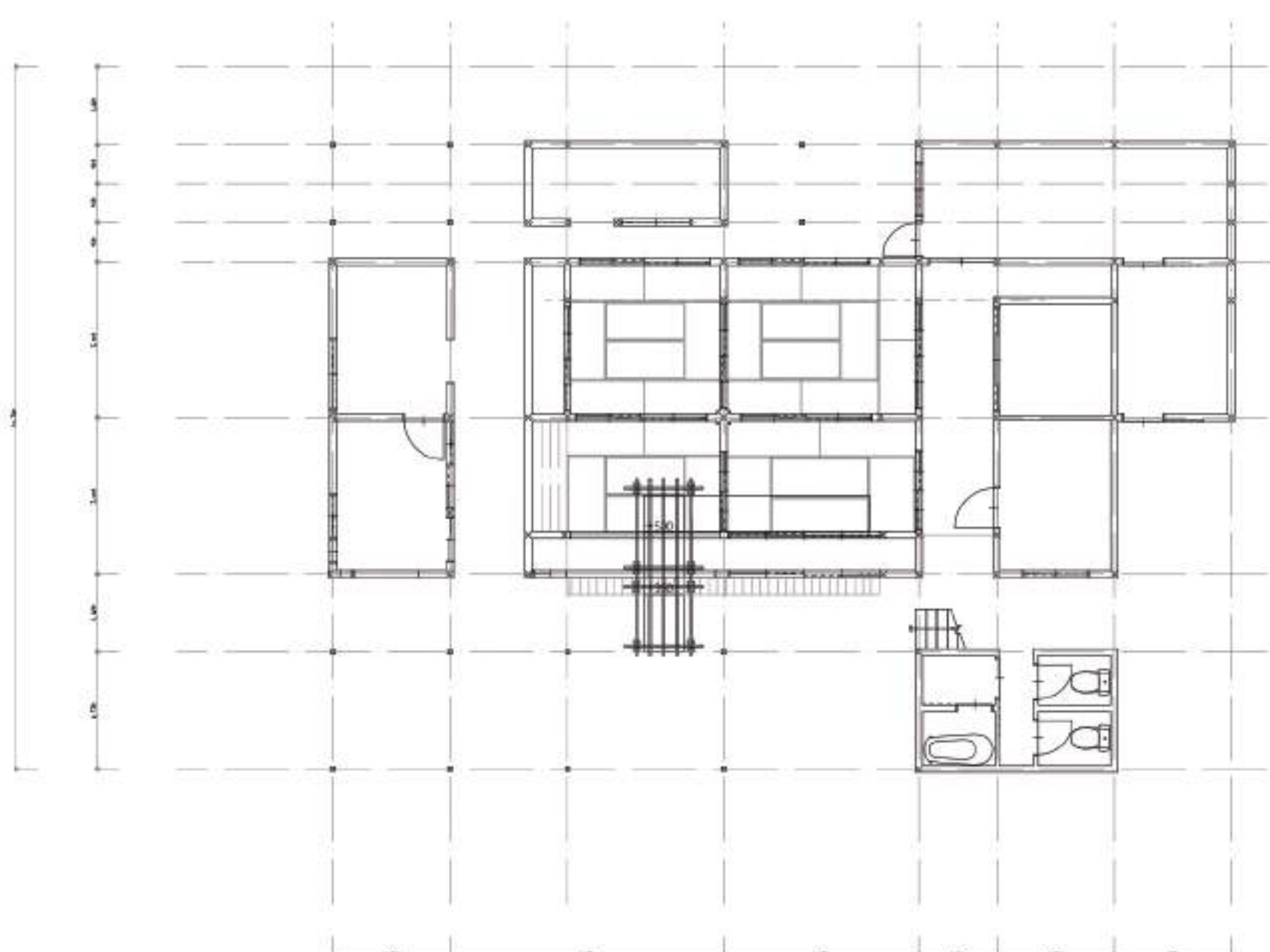
敷地所有者の外部と距離を取りたい、人が集まるような空間もほしいという気持ちの2面性に着目。
外部との距離を考慮した提案。



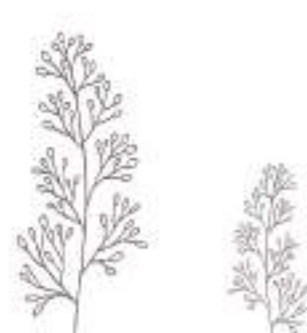
△既存を含めた全体のイメージ

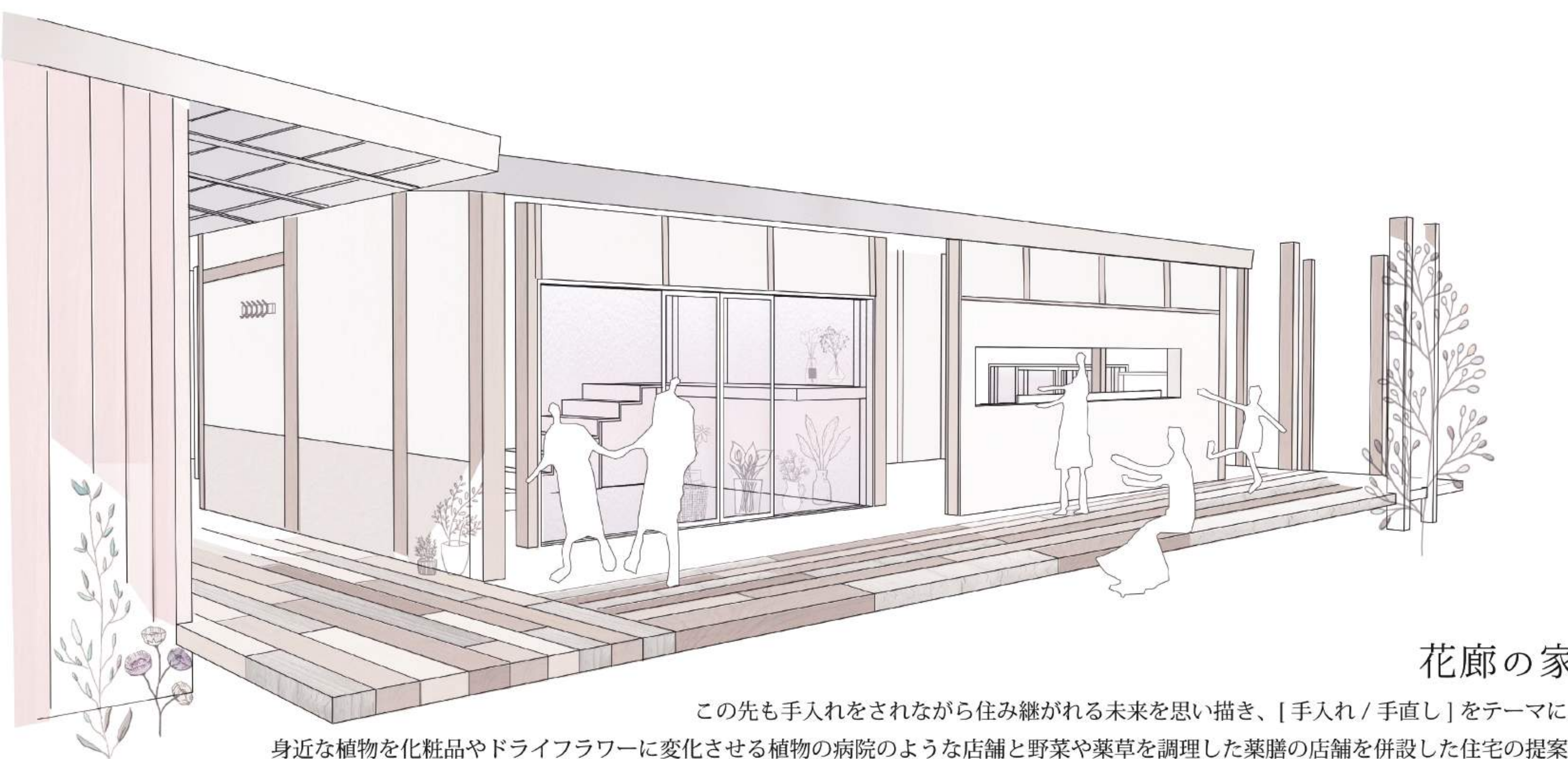


△シェルターのイメージ



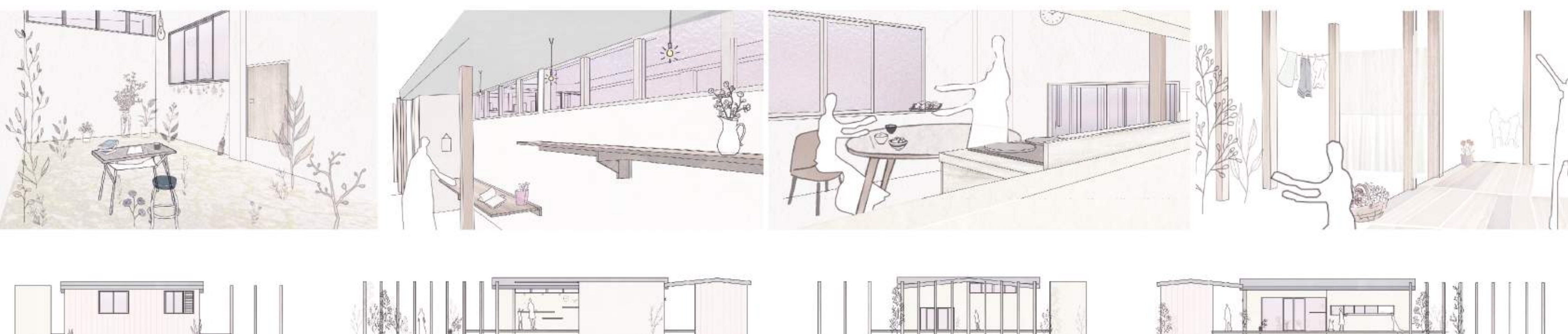
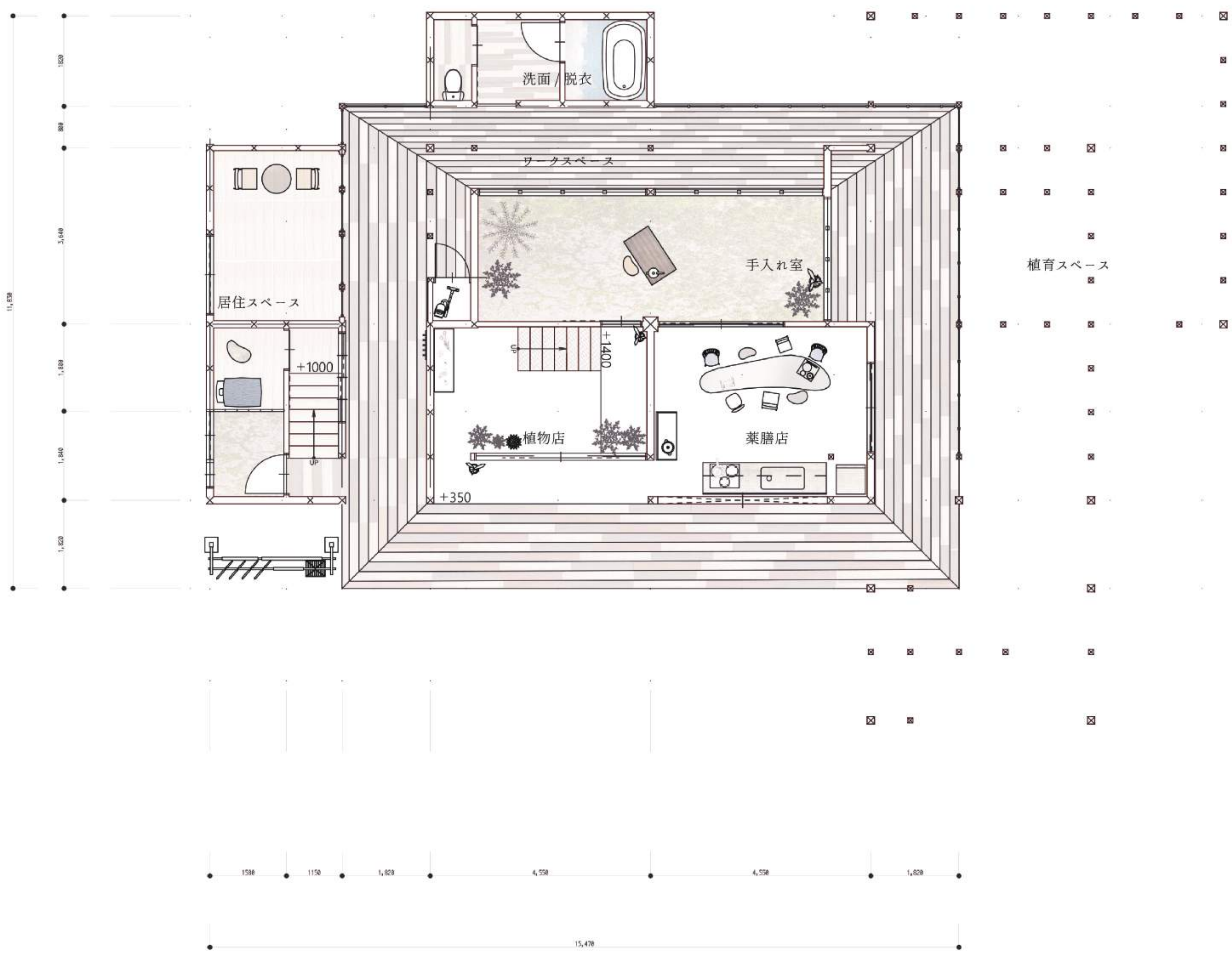
△入口のイメージ





花廊の家

この先も手入れをされながら住み継がれる未来を思い描き、[手入れ/手直し]をテーマに、身近な植物を化粧品やドライフラワーに変化させる植物の病院のような店舗と野菜や薬草を調理した薬膳の店舗を併設した住宅の提案。



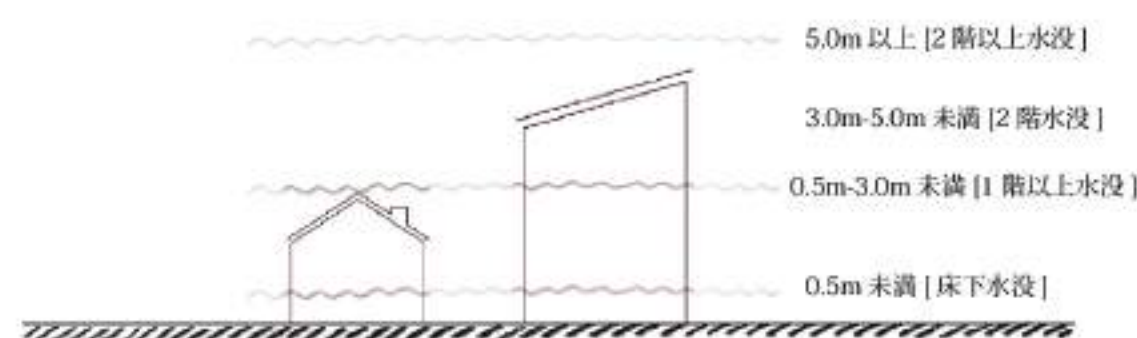
2 情報の選別



敷地の2面性について

警戒 / 受容

整備されない植物 / 手入れされる植物

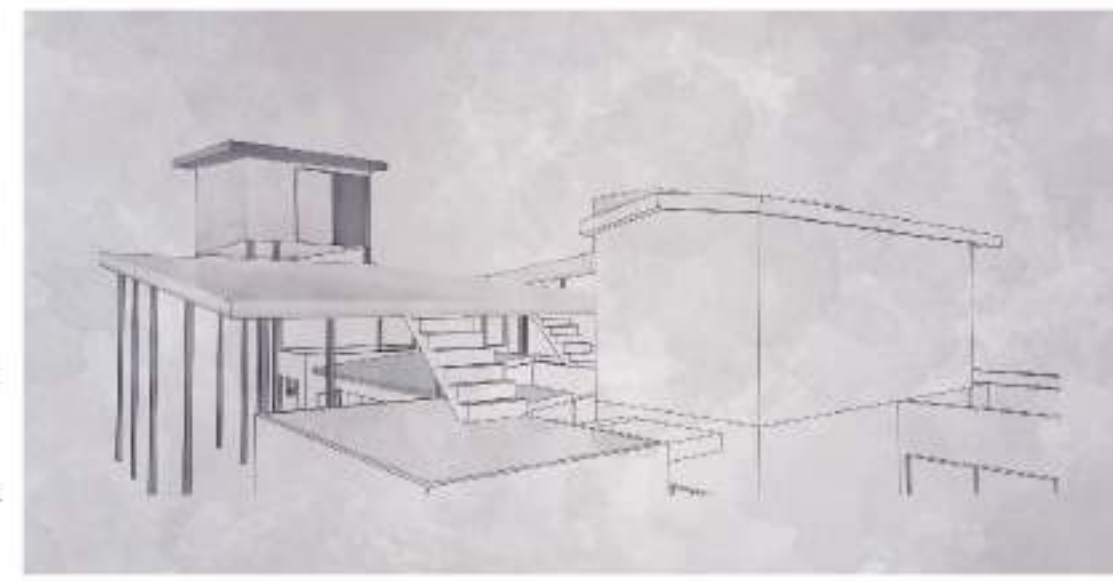
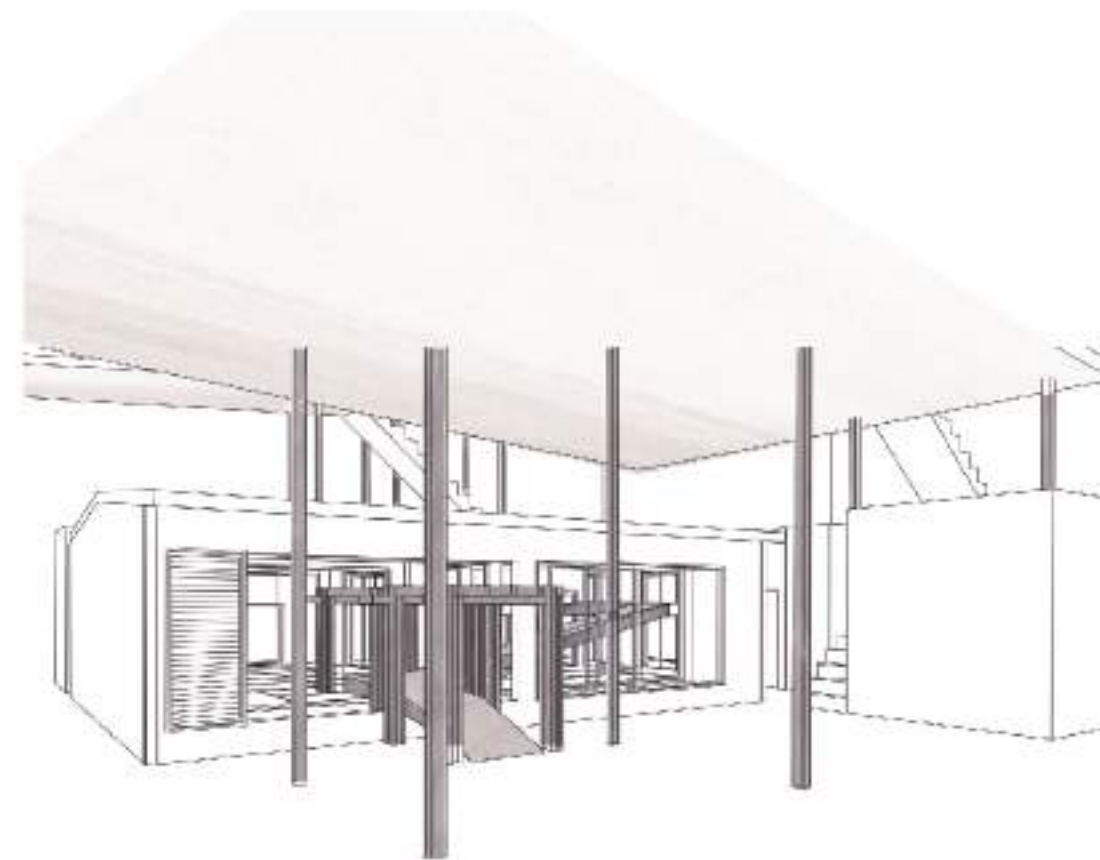


敷地所有者の気持ちの2面性について
外部と距離を取りたい、人が集まるような空間もほしいという外部との距離を考慮した提案。

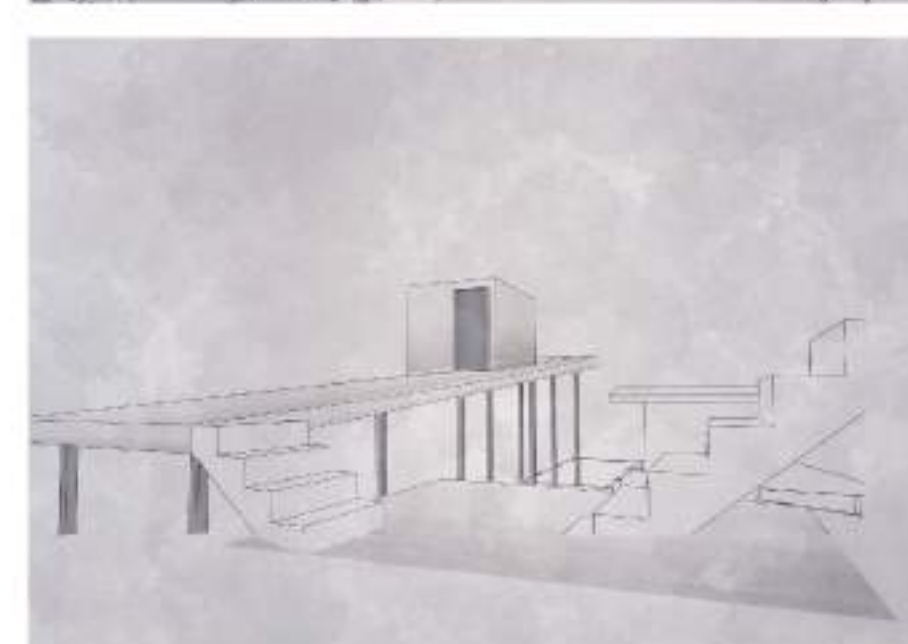
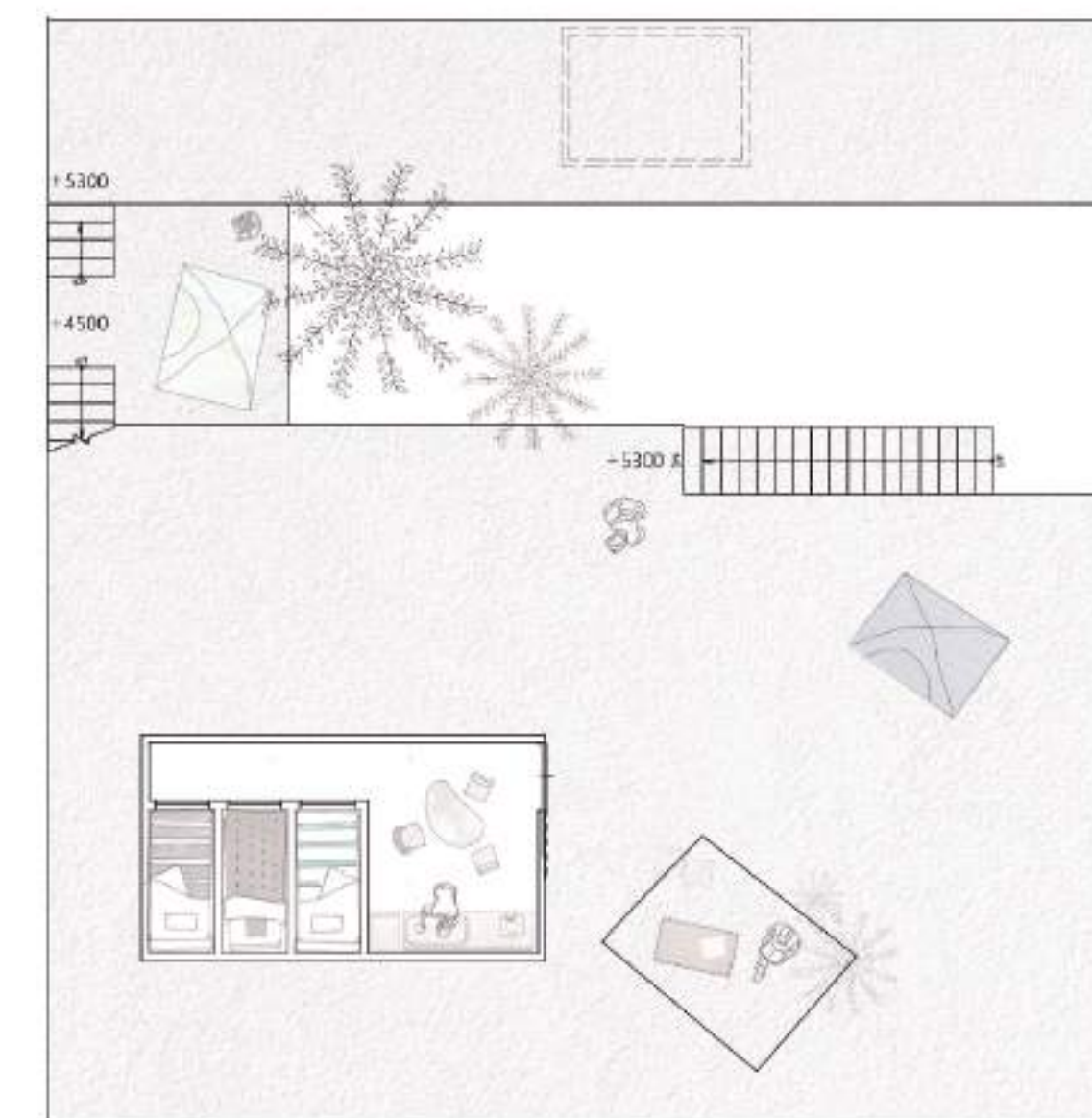
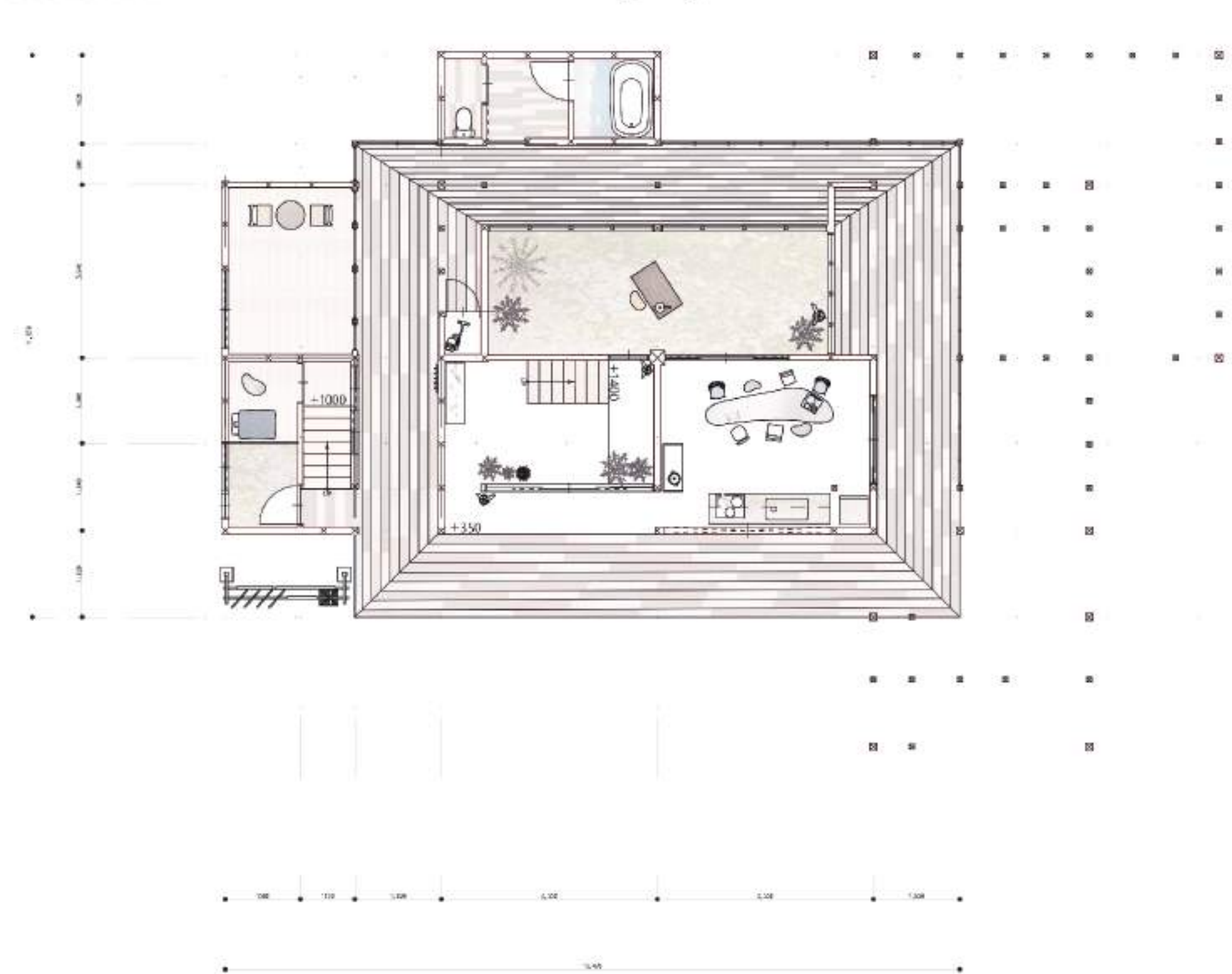
3 空間設計



- ・植物
- ・手入れ / 手直し
- ・通路
- ・外部の人を呼び込む

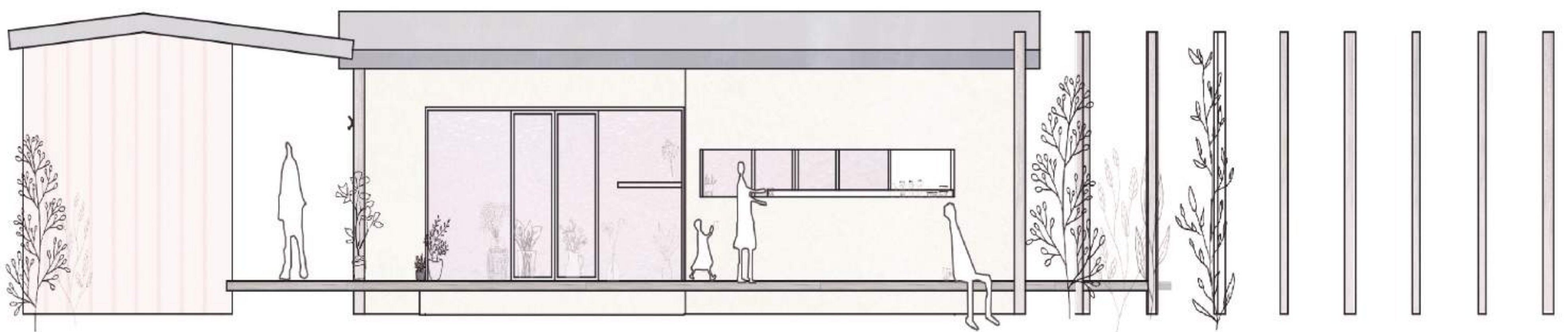


- ・自然 / 水害
- ・朽ちる建築と生きる建築
- ・通路
- ・逃げ場 / 避難場所



4 分析

[花廊の家]ではまちの2面性に着目した点、外部の人を巻き込む提案
住宅内に外部を引き込む空間提案であることから外向性を感じられる。



[高台の家]では施主の2面性に着目した点、内情を考慮した提案、
逃げ場 / 避難場所としての空間提案であることから部分的に内向性を感じられる。